

【No.49】 HER + XP療法(胃癌)

病名 _____ ID _____ 氏名 _____ (才)(男・女) ※化学療法承諾書要作成
 身長 _____ cm 体重 _____ kg 体表面積 _____ m² PS 0・1・2・3・4
 _____ 科 主治医 _____ 治療ライン _____ 次治療 服薬指導 依頼する・不要
 HBs抗原(+)→HBV DNA(), HBs抗原(-)→HBc抗体() HBs抗体() 確認医(科長) _____

カペシタビンとワルファリンカリウムとの併用により、出血が発現し死亡に至った例も報告されている。(カペシタビン添付文書警告欄より抜粋)
【警告】(トラスツズマブ添付文書より抜粋)
 ・必ず投与開始前には、患者の心機能を確認すること。
 ・安静時呼吸困難のある患者において、Infusion reactionが重篤化しやすいので、十分に観察しながら慎重に投与すること。
中止・延期基準(添付文書、適正使用ガイドより抜粋)
 ・好中球1500/mm³未満(カペシタビン)
 ・血小板7.5万/mm³未満(カペシタビン)
 ・Ccr30未満(カペシタビン、シスプラチン)

コース	体重	D1		指示	受領	コース	体重	D1		指示	受領

右下の欄へ続く

実施日	D1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21																					
指示																						
受領																						
入力																						
実施																						
指示																						
受領																						
入力																						
実施																						
指示																						
受領																						
入力																						
実施																						
指示	夕	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	朝
受領																						
入力																						
実施																						

指示内容	点滴時間	計算式
① Oポート患者 生食20mlシリンジ(穿刺) ② ST1 500ml(120分)×2回【本ルート】 ③ 生食250mlでプライミング【③以降側管ルート】		催吐リスク
④ 初回のみ(90分) 生食250ml + 注射用水20ml 2V + トラスツズマブ _____mg ④ 2回目以降(30分) 生食250ml + 注射用水20ml 2V + トラスツズマブ _____mg	初回8mg/kg 以降6mg/kg	最小 10%未満
⑤ 生食100ml+{グラニセトロン1A or パロノセトロン1V} +デキサート _____mg+ポララミン ____A +{ファモチジン 1A or ホスアプレピタント1V or ※アロカリス1V} ※終了後、③残液でフラッシュ。	30分	
⑥ (ケモ専用)生食500ml+シスプラチン _____mg ※終了後、③の残液でフラッシュ 変更1: _____mg(変更日: _____) 変更2: _____mg(変更日: _____)	120分	80mg/m ² 高度 90%以上
⑦ ラクテック500ml + ラシックス20mg1A ⑧ 生食20ml シリンジロック or ヘパリンシリンジロック (ポート患者のみ)	120分	
内服: カペシタビン300mg 1回 _____錠 1日2回朝夕食後 14日分 (初日は夕食後より開始) 変更1: 1回 _____錠(変更日: _____) 変更2: 1回 _____錠(変更日: _____)	d1 夕-15朝	右記 軽度 10-30%

3週毎(HER,CDDP: 1投2休、カペシタビン: 2投1休)

太枠内は原本に記入せず、カラーコピーして使用すること。

左上の欄より続き
カペシタビン減量基準(ゼロータ適正使用ガイドより抜粋)
 ・Ccr30-50: 1段階減量
 ・Ccr30未満: 禁忌
カペシタビン投与量(1回量)
 体表面積
 1.36m²未満 = 1200mg
 1.36-1.66m² = 1500mg
 1.66-1.96m² = 1800mg
 1.96m²以上 = 2100mg
※化学療法実施当日の2号紙に、実施の可否について記載すること。(記載確認後ミキシング開始となります。)
※アロカリス: 原則として、入院患者への使用はホスアプレピタントを使用できない症例に限定すること。